

背まもり

「背まもり」
を知っていますか？

「背まもり」とは、魔除けとして伝承されてきた飾り縫いのことです。

背中には人には身体的な弱点で、目で見ることができません。

そして、背中に縫い目のない一つ身の着物を着る子供たちには、

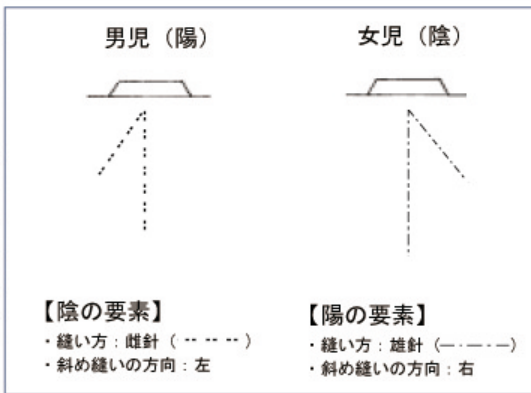
背中に「縫い目」という目もありません。

そのため、幼い子どもを守りたいと、一つ身の着物には様々な「背まもり」

が縫い取られました。

(イメージ)

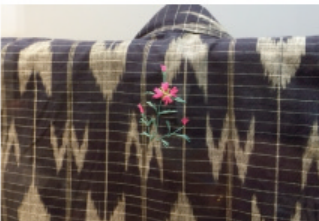
■糸じるし



背まもり例：1 糸じるし

1年12ヶ月にちなんで縦に7針、斜めに5針（または、縦に9針、斜めに3針）合計12針で仕上げます。「陰と陽が一体となる事で世界を作る」という考えから、男児（陽）と女児（陰）では縫い方が異なります。

■刺繍



背まもり例：2 刺繍

時代の移り変わりとともに、柄の多い布地で一つ身の着物を作ることになったことから、刺繍を縫いつけるようになりました。刺繍には吉祥文様をはじめ、子どもへの祈りを表す図柄が多く見られます。

作品の一例

おりづるや亀甲文様は長寿や健康を、麻の葉はすくすくと育つように。三本の矢は、毛利元就から。宝結びは財運祈願。かごのめ文様は魔除け文様。「あなたが幸せでありますように」と思いを込めて。



てまり麻の葉



麻という植物は成長が早く丈夫なので、子どもがすくすく健康に成長するようにという祈りが込められています。

ひしつづみ



ひし形は魔除けの文様、そして雅楽にも使われる鼓の音も魔物を寄せ付けまいといわれています。

おりづる



「鶴は千年、亀は万年」といわれ、長寿を意味する吉祥文様として有名です。